

鹿児島市及び連携中枢都市圏3市のNPO（市民活動団体）のご紹介

子どもたちの喜びを育てる
子どもが幸せなら
地域もきっと
幸せになれる。



かこい こうじ

どんこ村開拓団（執事 梶 孝二）

どんこ村開拓団の拠点でもある鹿児島市小山田町生まれの梶さん。中学卒業後の15歳から60歳まで市役所に勤める。平成23年3月11日に起こった東日本大震災。そこから始まったどんこ村開拓団物語。どんこは鹿児島弁でカエルのこと。「どんこも（=どの子も）」という意味も込めて。トレードマークのカエルのオブジェが出迎えてくれる事務所で話を伺った。

それぞれの地域に合った何かを探す

60歳まで勤めた市役所での最後の10年は伊敷支所での勤務。ちょうど地域の活性化を図れないかという考えを、事業の中に取り入れていく流れがあった。地域の人たちと触れ合うなかでどこの地域も元気がない。それは自分の故郷を見てもそうだなあと感じた梶さん。とはいえ、そんな中でも頑張っている人たちはいる。「自分も頑張らなくては…」地域に合った何かができないかと日々頭を巡らせていた。

「ちょうど東日本大震災が起こる前、小山田町内の校区公民館運営に関する会議で、役職を降りて、ほかの人たちに割り振っていました。いまある役割を手放すことで、自分がやりたいことに取り組めるように」。その数日後に起こった東日本大震災。それは「何かできないか」をカタチにしていく、梶さん自身の覚悟を決める出来事となった。

地域の活性化は"支援"というカタチから始まった

東日本大震災後、福島へ二度にわたって足を運んだ梶さん。そこで目の当たりにしたのは想像をはるかに越える、あまりにひどいまちの姿であった。親を亡くした子どもたち。娘や孫を亡くして被災したおじいちゃん。そんな人々を目の前に、なんと声をかけていいか、言葉にならない。言葉に詰まる感覚とともにただただ涙が溢れた。

私自身、家族に愛され、地域に守られて大人になってきた。被災した子どもたちは命がある限り、生きていかないといけない。何かこの子たちにできることはないか。そのとき、被災地で聞こえてきた「食べるお米があったら嬉しい」という声を思い出した。

「小山田町内には耕作放棄による休耕田がたくさんあります。この田んぼを生かして米をつくって販売して、そこで出た利益で被災地を支援しようと考えました。そうすれば学校には図書券を、被災地には現金を届けることができます」

しかし、梶さんは頭を抱えた。普段は市役所勤務、田植えの知識もない、さてどうしようかと。そんな心配とは裏腹に田んぼを貸してくれる方がすぐに見つかった。そして地域を

回り続ける椀さんに「お前がするなら加勢すっど」と言ってくれる仲間が集まっていった。それがどんこ村開拓団の始まり。正式には平成24年5月26日。1年かけて田んぼの準備をし、2年目から子どもたちも集めて農業体験を始めた。田植えをし、稲刈りをし、餅つき大会をして、川で魚釣りもする。7年目の収穫が終わって、現在8年目に突入した。

被災地の子どもたちも、鹿児島の子もたちも、どん子も。

ここでの体験を子どもたちは素直に反応し、喜んでくれる。子どもたちが嬉しそうだと、メンバーのじいちゃん、ばあちゃんたちも参加することへの喜びを感じられるし、元気になることにもつながる。そこに暮らす人が元気になれば地域が元気になる。参加してくれる子どもたちには毎回伝えているメッセージがあるという。



「ただ農業体験をしているのではない。何のために私たちはお米をつくっているのかを覚えて帰ってほしいと思っています。つらい環境でも頑張り続けている子どもたちを支援するためのお米なんだ。それを伝えることで"誰かのことを思いやれる"大人になってほしいと思っています」優しい瞳でそう語る椀さん。

思うことだけじゃない、想いをカタチにすることを一緒に考えていきたい

そんなどんこ村開拓団の最年長は84歳。最年少は40歳。平均70歳のチームだが、70代はまだまだ元気。『一人ひとり小さいが、大勢集まればおおきな力・おおきな志』はどんこ村開拓団のスローガンだ。

「小山田町は健康を語り、天気を語り、「どこに行くの」とさりげない見守りが当たり前にある町だからこそ、地域の絆が色濃く残っています。どんこ村開拓団とこの取り組みは、そんな小山田町には合っていたと思います。よそから全く同じものをコピーしてもうまくいくとは限らない。だからこそ、想いや夢を言葉にして、実践するまでに何が必要なのかみんなで考えて、集まる機会を多く持って語り合うことが大切になってくるんじゃないかな」。目標高く、自分ができること、地域に必要なことに目を光らせる椀さん。彼に続く地域のリーダーは？早速そんな期待が膨らむ時間となった。

どんこ村開拓団 団体概要

主な活動内容

地域の子もたちから高齢者までを対象に、小山田町にある耕作放棄地の田んぼを使った米づくり体験や野菜収穫、魚釣り体験、餅つき大会等を実施。収穫したお米をもとに、震災や水害の被災地へ支援を行う。



今後の展望・PRしたいこと

地域のリーダーとなる存在の育成。そういった存在ができるともっともっと地域が、世の中が元気になるのではないかと考える。どんこ村開拓団のメンバーはそれぞれできる人たち。だからこそ小山田町に限らずそれぞれの地域でも何かを起こしてほしいと考えている。

お問い合わせ

- 団体名：お米で支援プロジェクトチーム「どんこ村」開拓団
- 事務局（執事）：椀 孝二
- Tel：080-5210-3567
- Mail：kouji-k@aria.ocn.ne.jp
- ホームページ：http://mla70352.wixsite.com/donkomura